アウクスブルク滞在記

伊藤　希

１．初めに

私たちは、2026 年 8 月 29 日～9 月 7 日の約一週間、尼崎青年使節団として姉妹都市であるドイツのアウクスブルクを訪問させていただきました。私はもともと英語や国際的なことについて興味を持っていたので、今回のドイツへの訪問は非常に貴重な経験となりました。この滞在記では、そんな素敵な思い出や、印象に残ったことなどを記していこうと思います。

２．１日目

20 時間越えのフライトを終え、私たちはミュンヘン空港に到着しました。ドイツの街並みを見て真っ先に思ったことは、パリの街並みととても似ているということです。特に、ミュンヘン大学の近くにある、ジークストアと呼ばれる大きな建築物が印象に残りました。フランスの凱旋門にとても似ており、ヨーロッパの街並みの魅力にさらに引き込まれた瞬間でした。この日はバスの中からしか見ることが出来ませんでしたが、私はどうしてもしっかりと目に焼き付けておきたかったので、最終日にホストファミリーに連れてきてもらいました。私のホストファザーは日本が大好きな方で、何度も訪れたことがあると言っていました。アウクスブルク最古のカフェや、ビアガーデン、教会に連れて行ってもらいました。日本のことや、お互いの今までの旅行の体験談を共有し、とてもいい思い出になりました。

3.　２日目

この日は、尼崎市・長浜市とアウクスブルクの交流の象徴である、尼崎通りと長浜通りを訪れました。世界最古の福祉施設であるフッゲライにも訪れました。この場所は、ドイツの有名な富豪、フッガー家が低所得者の方々の住む場所として提供した場所です。年間の家賃は当時の価格でわずか１ユーロだったとお聞きしました。しかし夜に自由に外出することは禁じられているなど、様々な規制がありました。１つ１つの家を区別するために、呼び鈴の形が異なっていたことが印象的でした。“福祉施設”という言葉を聞くだけでは想像しにくいですが、どの家も家主の持ち物でカスタマイズされていたり、猫が居たりと、温かい印象を受けました。

↓フッゲライ



４．３日目

３日目には表敬訪問がありました。ロココホールと呼ばれる、大きな広間にて行われました。広間の中は、豪華なシャンデリアや肖像画が飾られ、とても華やかな空間でした。アウクスブルク教育長や使節団長の話を聞く中で、古くから続く姉妹都市交流の一員として自分が参加できていることを再認識し、この貴重な体験を大切にしようと思いました。

午後はドイツの伝統衣装体験がありました。それぞれの衣装の特徴や、年代による衣装の移り変わりを知ることが出来、興味深かったです。

５．４日目

この日は待ちに待ったノイシュヴァンシュタインを訪れる日でした。ドイツの観光名所といえば、この場所が真っ先に挙げられるでしょう。このお城はシンデレラ城のモデルといわれていることで有名です。幸いなことに天気にも恵まれ、お城が一番きれいに見えるという橋の上から鑑賞することが出来ました。お城の中は撮影禁止だったため、写真に残すことはできませんでしたが、金一色で統一された大広間が一番心に残っています。壁だけでなく、床や天井一面に絵画が描かれており、このような装飾が 19 世紀に人の手によってつくられた事実に感銘を受けました。その後は世界遺産にも登録されている、ヴィーナス教会に訪れました。

以前に他の教会も訪れていましたが、それらが比べ物にならないくらい、内観の装飾や高い天井に施された絵画に圧倒されました。



↑ノイシュヴァンシュタイン城



ヴィース教会→

6. 5 日目

この日のスケジュールは、サッカースタジアム、ダッハウ強制収容所、BMW 博物館、そして音楽鑑賞でした。ドイツの収容所と聞くと、私はアウシュビッツ収容所しか知らなかったのですが、このダッハウ収容所以外にもドイツ国内には多く存在することを知り、衝撃を受けました。施設内には、当時使われていたトイレやガス室、犠牲者の方々が身に着けていた衣服などが展示されていました。こんなにも惨たらしいことが世界で起こっていた事実はとても信じがたく、私たちは二度と同じことを繰り返さないようにその悲惨さを学ぶ必要があると痛感しました。

音楽鑑賞では、教会の中でハープの本格的な生演奏を聴くことが出来、貴重な時間となりました。

7．6 日目

この日は待ちに待った送別会の日でした。団員たちとそれぞれ練習した出し物を発表しました。

私たちは日本とドイツに関するクイズと日本の伝統文化である折り紙を一緒に折るコーナーを企画しました。私はクイズのトップバッターで、少し緊張しましたが、ホストマザーが必死にその姿をカメラに収めようとしてくれているのを見て、緊張が和らぎました。また、折り紙のコーナーでは、”あなた、こっちに来て教えて！”、”先生、教えてくれてありがとう”と温かい言葉をもらうことができて、嬉しかったです。



送別会にて→

8．7 日目

7日目は、終日ホストファミリーと過ごす日でした。私はどうしても1日目にバスの中からしか見られなかったジークストアを見に行きたかったので、午前中はミュンヘンで過ごしました。ミュンヘン大学や有名な都市間などにも連れて行ってもらいました。

夜は他の団員とそのホストファミリー達と合流して、遊園地に行きました。ライトアップもされていて、とても賑やかでした。ここでの一番の思い出は、遊園地の中にあるレストランで音楽に合わせて踊ったり、歌ったりした瞬間です。皆ビールを片手に、ドイツの伝統音楽に合わせて楽しんでいた光景が印象的です。



↑ジークストア



↑遊園地

9．最後に

今回の約一週間の滞在を経て、私は以前より一層、ヨーロッパの美しい街並みの虜になりました。また、私たちの住む尼崎がそんな美しい街と交流があることを誇らしく思います。将来、私は日本だけに留まらず、世界で大きく活躍できる人間になりたいと考えているので、そのための一つの経験として今回の交流はとても有意義なものとなりました。団員の皆、温かく支えて下さった現地の皆様、そして企画してくださった職員の皆様、貴重な機会を提供して下さり、本当にありがとうございました。